

こだま俳壇（2021年12月句会）

禁解けて舌で転がす爛の酒	角田英昭
留守電に残る無音や冬の月	三井光子
熱爛のうまさがわかる齡かな	小室豊子
熱爛やふと口をつく革命歌	中野みどり
着膨れし媪の膝の子猫かな	島田多嘉子
熱爛や銚子十本世を語る	瀧澤正行
冬薔薇の頭を垂れる小雨かな	白井保次郎
着膨れて丘の端に待つ月の蝕	田中一男
鍋の夜は一人酒でも熱爛で	並木まり子
熱爛や熱き言葉で語る友	松尾佐知子
日向ぼこ子猫が大きくのびをする	中村桂子
保護犬の毛をすく少女冬麗	友井眞言
熱爛に板山葵添えて旅終る	柳瀬節子
冬日和くつろぎみゆる庭の木々	本山文子
熱爛や粋を兄弟好みけり	高橋和江
冬日和故郷の山は綿帽子	常世田芳子
着膨れて古紙回収に子等遊び	後藤貞夫
暮早し山合の小屋ランプ点く	木村武子
熱爛や戦後の残るガード下	講師 太田土男